SATSUMA×WORK

さつま×しごと

Vol.06

竹工職人×西田大造

西田大造（にしだ たいぞう）さん（37）

湯田地区出身。実家の西田竹材工業所は、３代続く竹製品を作る会社。宮之城高校（現薩摩中央高校）を卒業後、愛知県で日本特殊陶業に就職。26歳で帰郷。家業を継いだ現在は、妻の裕子さんも同社に勤めている。湯田分団に所属し、４人の子どもの父でもある。

▼早掘りタケノコの産地で全国でも有数の竹林面積を誇るさつま町。特産品としてのタケノコや竹を使った町おこしなど、竹は町を語る上で欠かせません。そのような中、湯田地区で昭和20年に創業し、竹を使った調理器具などを製造、販売しているのが有限会社西田竹材工業所。３代目として日々技術を磨いているのが西田大造さんです。

▼西田さんは、宮之城高校を卒業後、県外に就職。しかし「地元で何かしてみたい」と26歳でUターンし家業を継ぎました。「子どもの頃は作業を見ても特に何も思いませんでした」と話す西田さんですが、実際に竹を扱うとその難しさを実感。「竹は自然のものなので反りや曲がりがあり、加工が難しい素材です。だけど、身近に豊富にあるのは良いですね」と話します。

▼レーザーで裁断やマーキングと呼ばれる細かい彫り込みができる加工機を持つ同社は、しゃもじやターナーといった製品のほとんどを県外に向けて販売しています。西田さんは「ブランド化を目指す会社から、商品にレーザーで細かいマーキングを入れる依頼がきます。カットとマーキングが両方できる機械を持っているのはこの業種では珍しいと思います」と説明します。

▼「以前は外国の大量生産品ばかりでしたが、最近は質を求める流れになり丁寧な仕事が認められるようになりました。機械で加工しても、最後はやっぱり手作業です」と品質を大切にする西田さん。「昔は多くあった竹の加工会社が、今では数えるほどしかありません。この会社も私がさつま町に戻ってきたときには従業員が5、6人しかいませんでした。今では若い人が多く入ってきて、その人たちがスキルアップをしていくのを見ているとうれしくなりますね」とやりがいを話します。

パソコンからデータを入力することで裁断や彫り込みができるレーザー加工機。

１mmに満たない細かい模様も正確に表現できます。